

太平洋同盟のメルコスールとの関係強化—その意義と必然性 (その2)

桑山幹夫*

III. 関連強化の必然性

太平洋同盟とメルコスール間の関係強化の意義とその可能性についてイデオロギー的論争が活発化する中、現に貿易・投資関係が強化され、市場主導の「事実上の統合」(*de facto integration*) が過去 15 年で太平洋同盟とメルコスール両地域間で進んできている。両統合体の協調路線は未だに不明確であるものの、これまでの「事実上の統合」の業績を法の上より確かなものにするために、官民連携主導での新しい「制度的な統合」(*de jure integration*) を民間が必要としている。その意味で、両者間の協力体制の強化は必然的である。まず本レポート(その2)においては「事実上」、次回(その3)では「制度上」、の統合プロセスの進捗状況を分析する。

A. 「事実上の統合」の観点から

1. 財貿易

本レポート(その1)で指摘したように、メルコスールと太平洋同盟加盟国の対世界財輸出総額は、2013年にそれぞれ4,500億ドル、5,700億ドルで、後者が前者を上回った。両者合計額約1兆2,000億ドルは、アセアン(ASEAN)10加盟国が同年で輸出した総額1兆2,700億ドルと肩を並べる。よって、太平洋同盟とメルコスールがラテンアメリカ市場として統合・拡大されて初めて、ASEANなどの新興・発展途上地域と同等に競合できる規模に達することが出来る。ラテンアメリカ域内の貿易・投資規制に整合性と調和化を持たせ、インフラ整備、貿易円滑化措置を共同で実施することで、同地域の信頼性を高め、国レベルだけでなく、地域での包括的な競争力を強化することが可能となり、世界のメガパートナーに対して臨界質量を持つことが出来る。ラテンアメリカの地域統合の改善には、両者統合機関間の協調が不可欠であり、両者間で進行中の「事実上の統合」を法的により確かなものとするために、「制度的な統合」が必然となってくる。

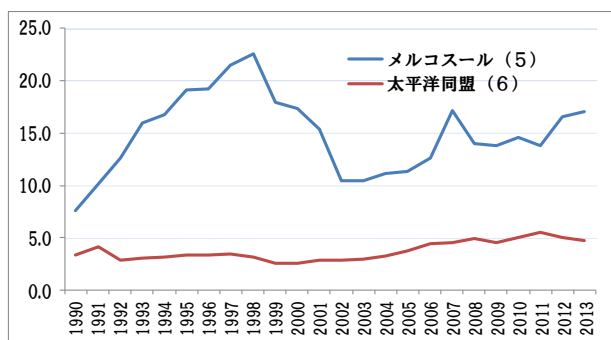
太平洋同盟が貿易構造でメルコスールと大きく異なることは、両統合機関間での貿易補完性とその将来性を考える上で重要である。最初に、各ブロック域内貿易の規模において大きな開きがあることに注目したい。太平洋同盟の対世界輸出総額はメルコスールのそれを上回るとは既に記述したが、メルコスール域内輸出額は2013年で671億ドルに達し、太平洋同盟の域内貿易総額303億ドルの二倍強に相当する(表一5A)。その上、太平洋同盟は漸次に域内貿易を拡大してはいるが、メルコスール域内貿易指数(15.2%)を10%ポイント強下回る低い水準(4.7%)で停滞している(図一2参照)¹。太平洋同盟単独では、重要

*/法政大学兼任講師・ラテンアメリカ協会常務理事。本稿で示された見解は著者個人のものであり、必ずしもラテンアメリカ協会の見解を反映するものではない。

な貿易圏であるとは言い難い。

太平洋同盟の域内貿易額が対世界貿易総額に占める割合が低い主因として、主導的立場にあるメキシコの貿易構造が米国に集中しているだけでなく、太平洋同盟加盟国の対米国、欧州連合、アジア太平洋（特に中国）市場の依存度が高いことが挙げられる。表一4で明らかのように、太平洋同盟の対米国依存度は輸出で58.5%、対ラテンアメリカ比率は12.8%で、メルコスールのそれぞれ7.2%、23.0%とは対照的である。域内貿易絶対額がメルコスールと比較して低額だけでなく、域内貿易の割合が低迷している現象は、太平洋同盟域内の市場が小規模で生産・貿易の補完性が低いことに起因する。このような状況では、太平洋同盟が域内で独自のサプライ・チェーン網を拡充してゆくのは難しい。同盟加盟国が生産面での連動性を高めるには、まずラテンアメリカ域内での生産的補完性が向上する必要がある。それが可能となって初めて、アジア太平洋のサプライ・チェーン網への参入が可能となる。

図一2：太平洋同盟対メルコスール、域内貿易係数の推移 1990-2013年
(地域内輸出総額が当該地域の対世界輸出に占める割合、パーセント)



出所：国連 COMTRADE データベースから著者が作成。

注：メルコスール(5)はアルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラで構成される。

太平洋同盟(6)は、チリ、コロンビア、メキシコ、ペルーの原四カ加盟国の他に加盟が承認されているコスタリカとパナマを含む。ベネズエラの場合、2011年の数値。

メルコスールの域内貿易係数は相対的に高いが、経済規模の非対称性のため、域内貿易がブラジルとアルゼンチン二国間貿易に集中する実情は否めない。その反面、対太平洋同盟加盟国との貿易依存度が伸びてきているのも事実だ（表一5A 及び 5B）。メルコスールはグループで、対太平洋同盟市場に2013年で約300億ドルに及ぶ財輸出をしている。一方、アルゼンチン、特にブラジルにとって太平洋同盟が重要市場になってきている。ブラジルの対太平洋同盟輸出（総額で183億ドル）はブラジルの対世界輸出総額の8%を占めるに至る。アルゼンチンの場合でも、太平洋同盟加盟国は、ウルグアイ、パラグアイと肩を並べる重要輸出市場であり、特にチリはラテンアメリカでブラジルに次いで第2の輸出国だ。従って、本レポート（その1）で指摘したように、両統合スキーム間で通商政策が乖離す

1 ラテンアメリカ域内貿易は、他の地域のそれと比較して低いレベルで低迷している。過去二十年の間、域内輸出は名目額で10倍増加したが、その期間中、域内輸出が輸出総額に占める割合が20%を上回ったことはない。この域内貿易の動向は東南アジア域内貿易の推移とは対照的である。ラテンアメリカ域内貿易は、完成財の取引に支配されるが、アジアの場合は地理的に断片化する複雑なサプライ・チェーンの構成によって、部品や付属品を中心とした産業内貿易によって特徴づけられる（WTO/IDE-JETRO、2011を参照）。すなわちラテンアメリカの現行貿易パターンは、残念ながら世界産業組織形態の主流を構成するものではない。

る傾向はあるものの、両統合機構加盟国の間には、生産・貿易補完性に基づいた、市場主導型の「事実上の統合」が展開されている。貿易相手地域として、お互いに無視できない重要な市場に成長してきている。

表一4: メルコスール/太平洋同盟の世界貿易内訳 対主要貿易相手国・地域別
2011年-2013年平均 a/
(百万ドル、パーセント)

	ラテンアメリカ	米国	欧州連合	アジア太平洋	世界全体	ラテンアメリカ	米国	欧州連合	アジア太平洋	世界全体
輸出										
総額(百万ドル)					各国の貿易総額に占める割合(%)					
メルコスール	アルゼンチン	33,437	4,241	11,975	15,088	80,537	41.5	5.3	14.9	18.7
	ブラジル	52,490	25,886	49,890	76,090	246,932	21.3	10.5	20.2	30.8
	パラグアイ	4,564	172	1,336	470	8,156	56.0	2.1	16.4	5.8
	ウルグアイ	3,351	316	1,082	1,145	8,562	39.1	3.7	12.6	13.4
	ベネズエラ	1,468	456	530	13,175	91,338	1.6	0.5	0.6	14.4
	ポピア	7,187	1,281	777	1,363	11,055	65.0	11.6	7.0	12.3
メルコスール合計	102,498	32,353	65,530	107,331	446,581	23.0	7.2	14.7	24.0	
太平洋同盟	チリ	14,026	9,487	12,516	38,151	78,929	17.8	12.0	15.9	48.3
	コロンビア	16,331	20,953	9,084	6,681	58,683	27.8	35.7	15.5	11.4
	メキシコ	27,280	287,702	20,325	16,770	366,778	7.4	78.4	5.5	4.6
	ペルー	8,297	6,678	7,683	12,742	44,485	18.7	15.0	17.3	28.6
	コスタリカ	3,136	4,203	1,925	1,495	10,982	28.6	38.3	17.5	13.6
	パナマ	3,333	1,385	204	275	5,407	61.6	25.6	3.8	5.1
太平洋同盟合計	72,403	330,407	51,736	76,114	565,264	12.8	58.5	9.2	13.5	
輸入										
メルコスール	アルゼンチン	27,983	8,111	12,472	17,034	72,160	38.8	11.2	17.3	23.6
	ブラジル	38,605	34,374	48,272	71,909	229,671	16.8	15.0	21.0	31.3
	パラグアイ	5,624	796	855	4,379	12,021	46.8	6.6	7.1	36.4
	ウルグアイ	5,024	1,056	1,441	2,510	11,340	44.3	9.3	12.7	22.1
	ベネズエラ	13,023	10,153	5,031	6,471	36,388	35.8	27.9	13.8	17.8
	ポピア	4,598	1,079	931	2,150	8,971	51.2	12.0	10.4	24.0
メルコスール合計	94,857	55,568	69,002	104,453	370,552	25.6	15.0	18.6	28.2	
太平洋同盟	チリ	21,142	16,597	11,386	22,938	78,304	27.0	21.2	14.5	29.3
	コロンビア	16,521	14,744	7,589	15,126	57,381	28.8	25.7	13.2	26.4
	メキシコ	14,436	182,773	40,580	112,208	367,601	3.9	49.7	11.0	30.5
	ペルー	11,997	8,091	4,776	13,019	41,126	29.2	19.7	11.6	31.7
	コスタリカ	4,191	8,968	1,391	3,004	18,248	23.0	49.1	7.6	16.5
	パナマ	4,407	3,396	1,487	5,297	15,816	27.9	21.5	9.4	33.5
太平洋同盟合計	72,694	234,569	67,208	171,592	578,476	12.6	40.5	11.6	29.7	

出所：国連 COMTRADE データベースから著者が作成。注：ベネズエラの場合、2011年の数値。

太平洋同盟の場合、メキシコの対コロンビア輸出、メキシコの対チリ輸出、コロンビアの対チリ輸出、ペルーの対チリ輸出、そしてチリの対ペルー輸出が2013年で太平洋同盟の域内貿易の約3分の2を占める。だが、太平洋同盟加盟国にとって、対メルコスール諸国の輸出額(264億ドル)は同同盟域内輸出額(271億ドル)に相当する規模にまで拡大してきている(表一5B)。対太平洋同盟輸出総額(303億ドル)は、メルコスールにとってはその域内輸出総額671億ドルの45%に相当するに過ぎない。太平洋同盟域内貿易は、アセアン(10カ国)域内輸出総額330億ドルと並ぶ発展途上の市場である。太平洋同盟とメルコスール間の貿易・投資ルールがなんらかの形で収斂できれば、拡大市場内での輸出総額が1,500億ドルに上る大自由貿易圏が創設されることになる(表一5A)。両統合スキームが連携し、関税・非関税障壁が削減・撤廃され、貿易・投資関連ルールが収斂することによって、拡大市場の中での財及びサービス貿易が活発化する可能性は十分ある。

太平洋同盟とメルコスールの共通点として、対欧州連合や対アジア太平洋の貿易構造と比較して、ラテンアメリカ域内貿易では製造業品の占有率が高いことが挙げられる。例えば、太平洋同盟域内では、製造業品が輸出総額に占める割合は2011-2013年平均で54%、対メルコスールでは59%、対米国輸出では、メキシコ輸出が米国に大きく依存していることを反映して68%の高率になっている。しかし、対アジア太平洋輸出では、製造業品が輸出総額に占める割合は12%に過ぎない(図一3B)。それとは対照的に、ラテンアメリカ域内貿易では、製造業品の中でも特に中技術集約的製造業品(自動車部門を含む)のプレゼンスが高い。同様に、製造業品がメルコスール域内貿易、そして対太平洋同盟貿易に占める割合が51%、61%と其々高く、対アジア太平洋の10%とは大きく異なる(図一3B)。

表—4A：メルコスール/太平洋同盟貿易マトリックス 2013年 a/
(百万ドル、パーセント)

輸出国→輸入国	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	ベネズエラ	ボリビア	メルコスール(A)	チリ	コロンビア	メキシコ	ペルー	コスタリカ	パナマ	太平洋同盟(B)	(A) + (B) = (C)	世界全体(E)	(C)/(E) (%)
アルゼンチン	-	16,216	1,297	1,782	2,156	793	22,244	3,907	1,530	1,064	1,451	107	113	8,172	30,416	76,634	39.7
ブラジル	19,615	-	2,997	2,071	4,850	1,534	31,067	4,484	2,703	4,230	2,147	302	4,423	18,289	49,356	242,178	20.4
パラグアイ	718	2,834	-	176	59	75	3,862	529	36	272	193	85	4	1,119	4,981	9,432	52.8
ウルグアイ	493	1,712	153	-	447	30	2,835	143	18	146	115	10	12	444	3,279	9,066	36.2
ベネズエラ	12	349	1	9	-	1	372	54	416	133	47	33	33	716	1,088	91,338	1.2
ボリビア	2,509	4,031	38	7	143	-	6,728	154	675	25	628	1	28	1,511	8,239	12,207	67.5
メルコスール(A)	23,347	25,142	4,486	4,045	7,655	2,433	67,108	9,271	5,378	5,870	4,581	538	4,613	30,251	97,359	440,855	22.1
チリ	1,046	4,434	473	207	522	1,705	8,387	-	869	1,321	1,963	261	117	4,531	12,918	77,367	16.7
コロンビア	433	1,591	18	23	2,256	144	4,465	1,572	-	864	1,274	277	3,219	7,206	11,671	58,822	19.8
メキシコ	1,966	5,387	130	308	2,155	199	10,145	2,085	4,735	-	1,771	977	1,047	10,615	20,760	380,123	5.5
ペルー	163	1,706	12	36	800	587	3,304	1,670	843	509	-	50	622	3,694	6,998	41,872	16.7
コスタリカ	7	32	1	1	69	2	112	29	71	255	16	-	580	951	1,063	11,472	9.3
パナマ	1	2	0	0	4	4	11	9	10	9	8	50	-	86	97	844	11.5
太平洋同盟(B)	3,616	13,152	634	575	5,806	2,641	26,424	5,365	6,528	2,958	5,032	1,615	5,585	27,083	53,507	570,500	9.4
(A) + (B) = (C)	26,963	38,294	5,120	4,620	13,461	5,074	93,532	14,636	11,906	8,828	9,613	2,153	10,198	57,334	150,866	1,011,355	14.9

表—4B：メルコスール/太平洋同盟経済圏内の貿易マトリックス 2013年 a/
(拡大貿易圏輸出総額 15,087 億ドルの内訳、パーセント)

輸出国→輸入国	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	ベネズエラ	ボリビア	メルコスール(A)	チリ	コロンビア	メキシコ	ペルー	コスタリカ	パナマ	太平洋同盟(B)	(A) + (B) = (C)
アルゼンチン	-	10.7	0.9	1.2	1.4	0.5	14.7	2.6	1.0	0.7	1.0	0.1	0.1	5.4	20.2
ブラジル	13.0	-	2.0	1.4	3.2	1.0	20.6	3.0	1.8	2.8	1.4	0.2	2.9	12.1	32.7
パラグアイ	0.5	1.9	-	0.1	0.0	0.0	2.6	0.4	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.7	3.3
ウルグアイ	0.3	1.1	0.1	-	0.3	0.0	1.9	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.3	2.2
ベネズエラ	0.0	0.2	0.0	0.0	-	0.0	0.2	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.7
ボリビア	1.7	2.7	0.0	0.0	0.1	-	4.5	0.1	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	1.0	5.5
メルコスール(A)	15.5	16.7	3.0	2.7	5.1	1.6	44.5	6.1	3.6	3.9	3.0	0.4	3.1	20.1	64.5
チリ	0.7	2.9	0.3	0.1	0.3	1.1	5.6	-	0.6	0.9	1.3	0.2	0.1	3.0	8.6
コロンビア	0.3	1.1	0.0	0.0	1.5	0.1	3.0	1.0	-	0.6	0.8	0.2	2.1	4.8	7.7
メキシコ	1.3	3.6	0.1	0.2	1.4	0.1	6.7	1.4	3.1	-	1.2	0.6	0.7	7.0	13.8
ペルー	0.1	1.1	0.0	0.0	0.5	0.4	2.2	1.1	0.6	0.3	-	0.0	0.4	2.4	4.6
コスタリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	-	0.4	0.6	0.7
パナマ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.1	0.1
太平洋同盟(B)	2.4	8.7	0.4	0.4	3.8	1.8	17.5	3.6	4.3	2.0	3.3	1.1	3.7	18.0	35.5
(A) + (B) = (C)	17.9	25.4	3.4	3.1	8.9	3.4	62.0	9.7	7.9	5.9	6.4	1.4	6.8	38.0	100.0

出所：国連 COMTRADE データベースから著者が作成。

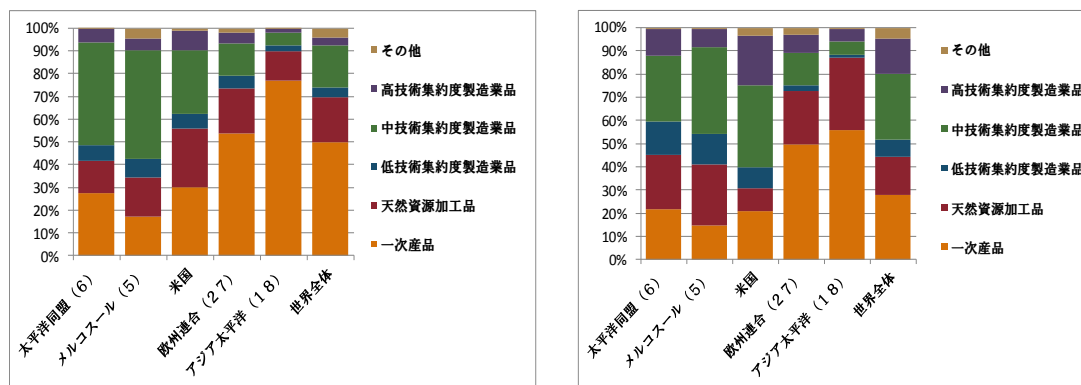
注：ベネズエラの場合、2011年の数値。

図一3：メルコスールと太平洋同盟の輸出構造 対主要貿易相手国・地域、技術集約度別
2011-2013年平均

(各貿易相手国・地域輸出総額に占める割合、パーセント)

A. メルコスール

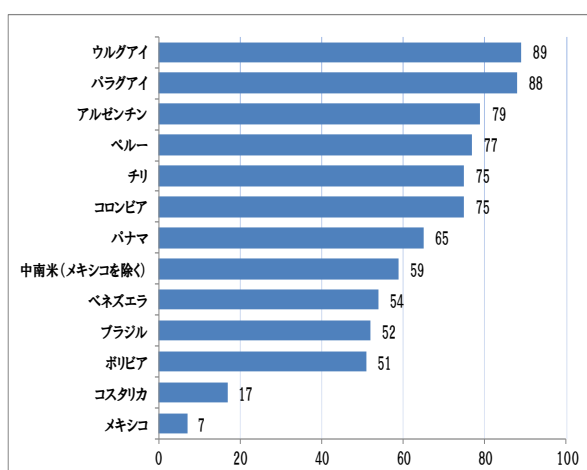
B. 太平洋同盟



出所：国連 COMTRADE データベースから著者が作成。技術集約度別の貿易額は、国連分類、Revision 2 による。

要するに、対アジア太平洋市場では、太平洋同盟とメルコスールは共に一次産品が中心だが、その反面、対ラテンアメリカ市場では、製造業品が輸出総額の 5 割強を占めるほど高い。(図一3)。対米国輸出構造では、製造業品の占有率が高くなっているが、これはメキシコの対米国市場の構造が製造業品に依存していることを反映している。国別でみると、太平洋同盟及びメルコスール加盟国の場合、中・高技術集約的製造業品の大半がラテンアメリカ域内市場向きである(図一4)。ウルグアイ、パラグアイ、アルゼンチン、ペルーでは、これら高付加価値商品の 7~8 割がラテンアメリカへ輸出される。

図一4：メルコスール/太平洋同盟加盟国 中・高技術集約的製造業品輸出におけるラテンアメリカ市場のシェア 2013年
(パーセント)



出所：国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(ECLAC), Panorama de la Inserción Internacional de América Latina y el Caribe: Integración regional y cadenas de valor en un escenario externo desafiante, Documento informativo, 2014年10月、図一3.1 頁93から引用。

太平洋同盟の対アジア太平洋輸出は一次産品に集中し、中間財の割合が低いために、輸出活動に付加価値が付き難い。中国の一次産品需要の増大で、国際商品とその加工品の対アジア太平洋輸出総額のシェアが続伸していることで、南米の「再一次産品化」に繋がったとも言える。しかし、一次産品輸出に特化するチリ、コロンビア、ペルーでも、多種の製造業品をラテンアメリカ市場へ輸出している。例えば、商品分類 6 桁で推計すると、チリは 2013 年に、対ラテンアメリカ市場へ 2,927 品目、対米国へ 1,261 品目、対欧州連合へ 1,356 品目を輸出したが、対中国、対日本市場へは其々 381 品目、259 品目に止まった (ECLAC 2014a)。同じような傾向が全てのラテンアメリカ国でみられることから、同域内貿易の促進が輸出構造の多様化にも貢献することが分かってきた。よって、工業品における補完性を活用することで、ラテンアメリカ域内でのサプライ・チェーンが促進される。また、太平洋同盟がアジア進出戦略を打ち出す際には、メルコスール加盟国が工業品で供える補完性を十分に考慮することが賢明だ。一方でメルコスール諸国は、太平洋同盟の対アジア戦略策定に積極的に参加し、アジア太平洋との関係強化だけでなく、対アジア市場へのサプライ・チェーン構築にも一役買う可能性が出てくる。

ラテンアメリカ域内貿易における製造業品の割合が高いにもかかわらず、域内貿易が完成品に集中し、中間財（特に部品や付属品）のシェアが、欧州連合、アジア、NAFTA 市場と比較して低いことは、域内でのサプライ・チェーン網が未だに希少であることを物語っている。ラテンアメリカでは部品・付属品貿易の域内貿易での占有率が僅か 10%に止まるが、アジア及び NAFTA 地域では、それぞれ 30%、20%を占める (ECLAC 2014a)。部品・付属品関係の貿易が希少であることは、産業内貿易の拡大を制限するだけでなく、保護主義的措置を招き易くする。

即ち、ラテンアメリカ域内貿易では、同じ産業・分野での「産業内」貿易が盛んで、南米諸国が対アジア太平洋及び欧州連合に一次産品を主に輸出し、技術集約度が異なる多種の製造業品を輸入する「産業間」貿易の形態とは本質的に差別できる。域内市場はラテンアメリカ諸国にとって、工業品の輸出先であり、工業品の対第 3 国輸出の「トランポリン」でもある (ECLAC 2014a)。より詳しく国別にみると、メキシコとコスタリカを除いて、メルコスール及び太平洋同盟諸国は、中・高技術集約的製造業品の輸出の 5 割強をラテンアメリカ市場へ出荷している。一次産品輸出に特化するウルグアイ、パラグアイ、ペルー、チリでも、商品によってはラテンアメリカ域内でも競争力を持っている (図一4)。ラテンアメリカの輸出構造が「再一次産品化」傾向が懸念されている現状では、太平洋同盟とメルコスールの関係強化がそのプロセスに歯止め掛けるだけでなく、ラテンアメリカの製造業分野でのサプライ・チェーンを促進する潜在力を秘めている。

ラテンアメリカ域内市場はまた、域内の中小企業にとって主な輸出市場であることを忘れてはいけない。実際、輸出企業が対米国市場へ出荷する割合が高いメキシコを除けば、ラテンアメリカで輸出に携わる企業は、ラテンアメリカ域内市場へ輸出する割合が他の市場と比較して高いことが知られている。輸出企業が域内市場に集中する傾向は、ラテンアメリカの準統合スキーム内で顕著だ。ベネズエラを除けば、メルコスールのような準統合機関に加盟する国々国では、同準統合スキーム市場に輸出する企業の割合が、他の地域に輸出する企業の割合を上回る。

その上、域内市場は、特に中小輸出業者にとって重要である。ラテンアメリカの輸出総額に占める中小企業のシェアは微々たるものだが、中小企業が輸出企業総数の 70%以上を占めている。メキシコを除くラテンアメリカ 13 カ国のデータでみると、中小輸出企業の輸出総額の 55%がラテンアメリカ市場向けで、域外市場に輸出する傾向が強い大企業の割合の 2 倍に上る (ECLAC, 2014a)。上記のように、域内市場は高付加価値と知識及び雇用集約

型な市場である。天然資源と低コスト労働力のみ依存する従来の静的比較優位とは対照的に、社会的包摂性、持続的開発、競争優位の目標等、幾つかの包括的要素を内蔵化する「開発戦略」に繋がり易い。

上記からも明らかのように、太平洋同盟がメルコスールとの関係強化を図ることは、これまでの「事実上の統合」の成果をより促進し、ラテンアメリカ諸国の生産と貿易構造の多様化及びバリューチェーン開発を促す強力な潜在力と成りうる。しかし、現状では、ラテンアメリカ域内貿易の潜在力が十分に活用されているとは言い難い。経済統合体メンバー国の貿易構造を考慮しつつ時系列の貿易額で（とりわけ所得水準、距離、開放度、その他）域内及び域外貿易の拡大の潜在力を推定する研究が幾つか存在するが、それらの研究結果は、現在の域内貿易のレベルが潜在的レベルと比較してかなり低いレベルで停滞し、域内貿易ギャップは地域全体で20%程度に達すると指摘している（Duran and Lo Turco, 2010）。一方、より多くの変数を加味する「重力モデル」（gravity model）は、現行の域内貿易がポテンシャルの約30%以下と推計している（IDB/ECLAC/World Bank, 2011）。輸出構造の観点からすると、高・中技術集中度製造業品と天然資源加工品部門で、域内貿易拡大の潜在性がより高いと考えられる。

2. 直接投資

地域市場は、海外直接投資の観点からも、ますます重要になってきている。ラテンアメリカ域内からの外国直接投資（FDI）流入総額が2000年～2004年期間では僅か4%に過ぎなかったが、2012年には14%に上った。域内発のFDIは特に小規模経済国において重要であることが知られている。例えば、ラテンアメリカ発のFDIが対世界FDI流入総額に占めるシェアは、2013年にエクアドルで46%、中米諸国で39%、コロンビアでは30%に達した。これとは対照的に、ラテンアメリカからのFDIがメキシコの総流入額の1%に満たなかった（ECLAC, 2014b）。ラテンアメリカの対外直接投資も順調に伸びてきており、2006年～2013年の期間で、ラテンアメリカ諸国から年平均で約350億ドルの投資が行われた（表-6）。ラテンアメリカでの主要投資国6国（アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、ベネズエラ、メキシコ）が地域の対外直接投資の大半を占めるが、過去3年では、チリ及びメキシコが最大投資国で、コロンビアがそれら諸国に次いでいる。アルゼンチンとベネズエラも継続して対外投資を行っている。反面、ブラジルは対外投資を引きあげているのが分かる。

表-6：ラテンアメリカ・カリブ海地域 対外直接投資高（流出 outflows）主要投資国別
2000-2013年
（百万ドル）

	2000-2005a/	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
アルゼンチン	533	2,439	1,504	1,391	712	965	1,488	1,052	1,225
ブラジル	2,513	28,202	7,067	20,457	-10,084	11,588	-1,029	-2,821	-3,495
チリ	1,988	2,212	4,852	9,151	7,233	9,461	20,252	23,330	10,923
コロンビア	1,157	1,098	913	2,486	3,348	6,893	8,304	-606	7,652
ベネズエラ/	809	1,524	43	1,598	2,236	1,776	-1,141	2,460	1,285
メキシコ	2,909	5,758	8,256	1,157	9,604	15,050	12,636	22,470	12,937
ラテンアメリカ・カリブ	10,131	41,560	23,179	37,352	13,690	46,282	42,179	47,186	31,611

出所：ECLAC Foreign Investment in Latin America and the Caribbean 2013、2014年5月発刊、表-1.4、46頁から引用。a/ 単純平均値。b/2013年の数値は第3四半期をカバーする。

域内直接投資の重要性が高まってきているが、それはラテンアメリカ系多国籍企業（Trans latinas）の投資戦略を反映している。これら企業の多くは、投資の大半をラテンアメリカ地域内で本国の近隣市場に向けている（表一7）。チリ系資本企業は、アルゼンチンとペルーに投資を集中してきたが、最近では対ブラジル及びコロンビア FDI も伸びてきている。コロンビア系企業は、当初ベネズエラに支店を開いたが、最近では、中央アメリカとペルーも重要な投資先になっている。一方、メキシコ系企業は、ラテンアメリカと米国での投資を拡大している。ブラジル系企業による投資の大半がラテンアメリカ向けであるが、同地域の最大投資国として、域外の市場、特に米国での投資が活発化している（ECLAC、2014c）。

表一7:ラテンアメリカ系多国籍企業（translatinas）による主要な買収・合併物件（M&As） 2013年

投資企業名	国籍	被買収・合併企業	投資受け入れ国	被買収企業所在地	業種	投資額
1. Bancolombia	コロンビア	HSBC Panama	パナマ	英国	金融	2,234
2. Cola-Cola FEMSA	メキシコ	Spaipa SA	ブラジル	ブラジル	食料飲料水	1,855
3. Grupo BTG Pactual	ブラジル	Stake in oil exploration (50%)	アフリカ	ブラジル	石油	1,575
4. Grupo Nutresa	コロンビア	Tresmontes Luchetti	チリ	チリ	食料飲料水	758
5. Banco Safra	ブラジル	Bank J Safra Sarasin (50%)	スイス	スイス	金融	700
6. Cola-Cola FEMSA	メキシコ	Coca-Cola Bottlers Philippines (51%)	フィリピン	米国	食料飲料水	689
7. Grupo Aval	コロンビア	Banco Bilbao Vizcaya Panama (99%)	パナマ	スペイン	金融	688
8. Grupo Aeropuerto de Sureste	メキシコ	LMM Airport	プエルトリコ	プエルトリコ	運輸	615
9. Sementos Argos	コロンビア	Lafarge Cementos Honduras (53%)	ホンジュラス	フランス	セメント	573
10. Cola-Cola FEMSA	メキシコ	Companhia Fluminense de Refrigerantes	ブラジル	ブラジル	食料飲料水	448
11. ENTEL	チリ	Nextel de Peru	ペルー	米国	電気通信	400
12. Investor group	メキシコ	ISC Fresh Water	スペイン	英国	不動産	394
13. Alfa SAB	メキシコ	Campofrio Food Group (45%)	スペイン	スペイン	食料飲料水	309
14. Corpesca	チリ	Sementes Selecta (60%)	ブラジル	ブラジル	農業	260
15. Mexichem SAB	メキシコ	Resin production assets	米国	米国	化学	250
16. Bancolombia	コロンビア	Grupo Agromercantil Holding (40%)	グアテマラ	米国	農業	217
17. Vale SA	ブラジル	Belvedere coal mine (25%)	オーストラリア	オーストラリア	鉱業	156
18. Pluspetro	アルゼンチン	Harvest Vincler (29%)	ベネズエラ	米国	石油	135
19. Marcopolo SA	ブラジル	New Flyer (20%)	カナダ	カナダ	自動車	116
20. Amil Participacoes SA	ブラジル	Hospitais Privados de Portugal	ポルトガル	ポルトガル	ヘルスケア	110

出所：ECLAC Foreign Investment 2013、2014年5月発刊、表一1.5、47頁から引用。

3. 政策的含意

メルコスール、アンデス共同体、中米共同市場などの準統合スキーム間では、輸出品目が著しく異なるが、「低付加価値」か「非知識・技術集約的」商品が大半を支配するという偏った貿易特化の問題を共有する。太平洋同盟も例外ではない。南米諸国は一次産品とその加工品輸出にこれまで特化してきたが、近年、その比重がさらに増し、「再一次産品化」の現象が出てきている。この傾向はアジア（特に中国）の強力な一次産品需要が原動力となっている。南米諸国パターンは、総合的には高い輸出伸び率を示すが、一次産品の国際需要拡大とその結果生じる価格上昇という外的要因と関連している。一方、製造業品が総輸出に占める割合が高いメキシコや中米諸国の輸出パフォーマンスは南米諸国のそれに劣り、主要な第三市場—特に米国で—繊維・アパレル産業などの非熟練労働者集約度が高い製造業品部門で中国やその他のアジア諸国と激しく競合する。太平洋同盟とメルコスール間が連携することで、加盟国が非熟練労働力、豊富な天然資源、あるいは最終製品や生産工程での低付加価値、及び静的比較優位に基づく貿易分業体制から脱出できるか否かが問われる。

上記の観点からして、太平洋同盟とメルコスール間で経済統合を深めることは、二重の価値を持つといえる。近年、ラテンアメリカ地域の数カ国(主に南アメリカ諸国)が一次産品輸出に特化してきているが、地域経済統合の強化は、対アジア市場の一次産品需要指向型の進化プロセスにブレーキをかけ、対商品価格変動の敏感性を低減し、バランスのとれた輸出商品構成の達成に役立つと考えられる。また、この地域統合強化路線は、従来の主輸出市場である米国でアジア諸国との競争が激化する国々(主にメキシコと中央アメリカ諸国)にとっては、新しい輸出品ニッチの開発にも役立つと考えられる。

ラテンアメリカ地域の統合政策は大きく変化しており、80年代の単なる貿易自由化から今日の輸出志向型開発戦略へと進化してきた。しかし、グローバルなサプライ・バリューチェーンが続出し、生産活動と世界貿易でイノベーションが占める役割が高まるにつれ、同地域諸国は、さらに次の二段階へと進行することを新しい課題として挙げている。一つは、貿易自由化と輸出志向から企業の国際化戦略へ移動すること、第二はそれと同時に、域外市場に一次産品を輸出し、それら地域から製造業品を輸入する「産業間貿易」体系から脱皮し、グローバル・サプライ・チェーンへ参入し、小規模経済国が独自のハイテク製品や専門サービス部門のニッチ分野に特化することによって同種の産業・分野内での「産業内貿易」体系へと変革することが重要である。

また、企業の国際化を図るには、総括的アプローチとその目的達成のための諸政策に相乗効果を持たせることが必要であるが、その政策路線は、熟練労働者や人的資源の育成、産業集積の形成、モノ(財)及びサービス生産に携わる中小企業の技術の高度化、特定の生産部門・活動を促進するための技術革新・移転企画の奨励、技術・知識集約的な外国直接投資の誘致等、国際競争力の強化を図る幾つかの政策領域間で総合性を持たせるのが必須であるというのが、最近のラテンアメリカ政府当局の認識だ。

参考文献

ALADI (Latin American Integration Association)(2011), *Disposiciones sobre acumulación de origensuscritas al amparo del TM80* (ALADI/SEC/di 2422),Montevideo, 8 July.

Almonte, L y Morales M. (2012). ¿Un nuevo intento a la integración latinoamericana? México y la Alianza del Pacífico. Cuadernos sobre Relaciones Internacionales, Regionalismo y Desarrollo, 7, 111- 133.

Baldwin, Richard (2011) “21st Century Regionalism: Filling the Gap between 21st Century Trade and 20th Century Trade Rules.” Centre for Economic Policy Research Policy Insight No. 56, May.

Bartesaghi, Ignacio (2014) “El Mercosur y la Alianza del Pacífico, ¿más diferencias que coincidencias?” Revista Digital Mundo Asia Pacífico, Centro de Estudios Asia Pacífico, Universidad de EAFIT, Vol.3 , Número 1 Enero - Junio

Berlinski, Julio; Ramón Torrent; Francisco E. Pires de Souza; Daniel Chudnovsky y Andrés López (2006) “15 años de MERCOSUR: comercio, macroeconomía e inversiones extranjeras. Serie Red Mercosur, No. 8: Montevideo.

Da Motta Veiga; Pedro y Sandra P. Ríos (2007), “O regionalismo pós-liberal, na América do Sul: origens, iniciativas e dilemas”, Serie Comercio internacional, No.82, CEPAL, Santiago.

DIRECON(2014a) “Chile explora nuevas áreas para profundizar relaciones económico-comerciales con Brasil”,14 octubre, 2014

———(2014b) “Viceministros de Comercio y RR.EE. de Alianza del Pacífico destacan avances en ventanilla única regional de comercio y agenda con países observadores” 10 octubre, 2014

———(2014c), “Alianza del Pacifico. Protocolo Adicional al Acuerdo Marco: ¿Qué significa?”, febrero 2014

ECLAC (2014a) Panorama de la Inserción Internacional de América Latina y el Caribe: Integración regional y cadenas de valor en un escenario externo desafiante, Documento informativo, 2014 年 10 月 Santiago de Chile.

———(2014 b) Regional integration: towards an inclusive value chain strategy, LC/G.2594(SES.35/11) • May 2014, Santiago, Chile.

———(2014c) Foreign Direct Investment in Latin America and the Caribbean 2013, Briefing Paper, 5 月、 Santiago de Chile.

———(2010a), Opportunities for convergence and regional cooperation (LC/L.3201), Santiago, Chile.

———(2008), “The Mercosur Experience”, International Trade and Integration Division, November 2008

Durán Lima, José and Alessia Lo Turco (2010), “El comercio intrarregional en América Latina: Patrón de especialización y potencial exportador”, *Los impactos de la crisis internacional en América Latina: ¿Hay margen para el diseño de políticas regionales?*, María Inés Terra and José Durán Lima (coords.), Red MERCOSUR series, No. 18, Montevideo, August.

lainformacion.com/Efe (2014) “Chile apuesta en la convergencia entre la Alianza del Pacífico y el Mercosur” , 14 octubre 2014

Infolatam /Efe (2014) “Brasil propone adelantar acuerdo comercial de Mercosur y Alianza del Pacífico”, Noticias por Centro de Estudios Estrategicos, 24/07/2014, , Brasillia

Intal (2014) “MERCOSUR-Pacific Alliance: Brazil seeks to step up free trade with Colombia and Peru”, Monthly Newsletter, September 2014

Inter-American Dialogue (2014), “Will Mercosur and the Pacific Alliance Strengthen Ties?”, Latin

America Advisor, October 2, 2014

IDB/ECLAC/World Bank (Inter-American Development Bank/Economic Commission for Latin America and the Caribbean/World Bank) (2011), "Investing in integration. The returns from software-hardware complementarities", Policy Discussion Brief, paper presented at the fourth Meeting of Ministers of Finance of the Americas and the Caribbean, Calgary, Canada, 26 March.

elnuevosiglo.com (2014) "Brasil y Colombia avanzan en la facilitación de comercio", 1, septiembre, 2014,

<http://www.elnuevosiglo.com.co/articulos/9-2014-brasil-y-colombia-avanzan-en-la-facilitaci%C3%B3n-de-comercio.html>

JETRO(2014a) ジェトロ世界貿易投資報告 2014年、9月

<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2014/>

——(2014b) 「4カ国の証券市場統合などで前進-第9回太平洋同盟首脳会合が開催-(チリ、コロンビア、メキシコ、ペルー)」 014年6月27日 中南米課

——(2013) 「例外100品目の輸入関税引き上げを実施(アルゼンチン)」 通商弘報 2013年1月28日 サンパウロ事務所

Kimura, F. (2012a), 'Japan's Mission on Constructing a New International Economy Order', Japan Economic Currents- A Commentary on Economic and Business Trends. Tokyo: KeizaiKoho Center, Japan. Available at: <http://www.kkc.or.jp/english/activities/publications/economic-currents81.pdf>.

木村福成 (2012b) 「TPPと21世紀型地域主義」馬田啓一ほか編『日本のTPP戦略 課題と展望』文眞堂 2012年。

中川淳司 (2013) 『WTO 貿易自由化を超えて』(岩波新書 1416) 2013年。

Peña, Félix (2014) "Convergence and Productive Articulation at Regional Level: A timely initiative arising from the recent Summit of the Pacific Alliance, International Trade relations Relations Newsletter, July 2014

—— (2013). Negociaciones Comerciales de la Argentina. MERCOSUR Y ALIANZA DEL PACÍFICO EN LA INTEGRACIÓN REGIONAL: Primera aproximación a la pregunta ¿se contraponen o se pueden complementar? Recuperado el 10 de setiembre de 2013 de: <http://www.felixpena.com.ar/index.php?con>

Malamud, C. (2012). "La Alianza del Pacifico: un revulsivo para la integración regional en América Latina", Análisis Real Instituto, 27 junio, (working paper).

Mulder, Nanno, Sebastián Sáez, Claudia de Camino; Alfonso Finot (2007) "Trade in services in Latin America and the Caribbean: an analysis of recent trends", Comercio Internacional, N° 84 (LC/L.2830-P), ECLAC, Diciembre, 55 pp.

Pereira, Lia Valls, Ricardo Sennes, Nanno Mulder (2009) "Brazil's emergence as the regional export leader in services: A case of specialization in business services" Comercio Internacional, N° 94 (LC/L.3124-P), ECLAC, Octubre 2009, 45 pp.

Rosales, Osvaldo and Sebastián Sáez (comps.) (2010), Temas controversiales en negociaciones comerciales Norte-Sur, Libros de la CEPAL, No. 106 (LC/G.2417-P), Santiago, Chile, Economic Commission for Latin America and the Caribbean (ECLAC), August. United Nations publication, Sales No. S.09.II.G.94.

Secretaría de Economía de México (2012). Memorias Documentales. Unidad de Coordinación de Negociaciones Internacionales, Alianza del Pacífico. Recuperado el 12 de setiembre de 2013 de: http://www.economia.gob.mx/files/transparencia/informe_APF/memorias/6_md_alianza_pacifico_sce.pdf

SELA (2013). La Alianza del Pacífico en la Integración Latinoamericana y Caribeña, SP/Di N°1-13. Recuperado el 12 de setiembre de 2013 de:
<http://www.sciencespo.fr/opalc/sites/sciencespo.fr.opalc/files/SELA%20AP%20y%20la%20integracion%20Latam.pdf>

Stephenson Sherry and Maryse Robert (2011), “Innovations of Regionalism in Services in the Americas” Working Paper No 2011/34, Swiss National Centre of Competence in Research May

Tremolada, E (2013) ¿Y ahora la Alianza del Pacífico? En Eric Tremolada (Ed), Repensando la integración y las integraciones (pp. 233 – 261). Bogotá, Colombia: Universidad Externado de Colombia.

WTO/IDE/JETRO (World Trade Organization/Institute of Developing Economies/Japan External Trade Organization) (2011), Trade Patterns and Global Value Chains in East Asia: From trade in goods to trade in tasks, Geneva.